

欧州連合（EU）エラスムス・ムンドゥス・マスタープログラム

「ユーロ・フィロソフィー」

法政大学プログラム

●エラスムス計画とは

エラスムス計画とはEU内における国境を越えた学生交流を促進のためのプログラムで、1987年に創設された。EU内の他国の大学に1年間留学することに対して奨学金を提供し、学生達が異なった文化の中で生活し、異なった言語で学習することを通じて、ヨーロッパ的人材として育つことを後押ししようとするものである。最初の20年間で、200万人以上の学生がこの制度の恩恵で留学を経験しており、このプログラムはEUの社会・文化のあり方に大きな影響を与えている。

////////////////////////////////////

●エラスムス・ムンドゥス計画とは

エラスムス・ムンドゥス計画はエラスムス計画のいわば世界版（ムンドゥス＝「世界」）。EU内に留まらず、EU外をも巻き込む学生交流の活性化を目指して、2004年に創設された。現在のところ対象は修士課程生。このプログラムでは、特定の専門分野について、まずはEU内の、そして現在ではEU外をも含む複数の大学がコンソーシアムを組みエラスムス・ムンドゥス・マスタープログラムを構成し、その修士課程に、EU内からだけでなくEU外からも学生を募って参加させる形を取る。採用された学生には高額の奨学金が提供され、EU外をも含むコンソーシアム内の複数の大学で学び、それら複数の大学（現在はEU内に限られるが）から同時に学位を取る道を保証している。最初の3年間でこの制度にはEU外から2000人以上の学生が採用されている。

////////////////////////////////////

●エラスムス・ムンドゥス・マスタープログラム「ユーロ・フィロソフィー」とは

▲「ユーロ・フィロソフィー」はドイツ哲学・フランス哲学を主たる教育内容とするエラスムス・ムンドゥス・マスタープログラムである。中でも、以下の3分野が中心的に扱われている。

- ①カントそしてドイツ観念論から、マルクス、シュOPENハウアー、ニーチェまでのドイツ古典哲学。
- ②メヌ・ド・ビランからベルクソンを経てフーコー、ドゥルーズに至るまでのフランス近現代哲学。
- ③ドイツとフランスの現象学。

▲「ユーロ・フィロソフィー」では、以下のEU内7大学がコンソーシアムを組んで、2007年にEU外を含む学生の受入を開始。2008年からは同じく以下のEU外3大学とも連携して、10大学で課程を

●教員

参加教員はEUから派遣の3名と日本からの6名の以下9名である（*は実施責任者）。

- ▲フローランス・ケメックス（ベルギー・リエージュ大学）
- エチエンヌ・バンブネ（フランス・リヨン第3大学）
- アルノー・フランソワ（フランス・トゥルーズ第2大学）*

- ▲金森修（東京大学教育学部）
- 鈴木泉（東京大学文学部）
- 杉山直樹（学習院大学文学部）
- 村上靖彦（大阪大学人間科学部）
- 藤田尚志（九州産業大学国際文化学部）
- 安孫子信（法政大学文学部）*

●学生

参加学生はEUから派遣の以下5名に加えて、法政大学大学院からの複数名。

- ▲クレマンティヌ・シャプロン（フランス）
- ダーナ・ムドゥロヴァ（チェコ）
- ジェローム・パオルッチ（フランス）
- アンナ・ストイメノヴァ（ブルガリア）
- ロール・バルボ（フランス）。

▲法政大学哲学専攻大学院生への対応

法政大学大学院哲学専攻生が当該授業に参加し、授業終了時に一定の成績評価を受ける成果を得た場合には、哲学専攻は、大学院学則第19条第1項に従い、その成績を当該学生の修了所要単位（1科目2単位）として認定することになる。

▲自由聴講

本授業はエラスムス・ムンドゥス修士課程生と法政大学哲学専攻大学院生へ向けた正規授業であるが、この試みは同時に、哲学のヨーロッパの現場と日本の現場とが広く交わる機会を生み出すことを目指している。正規の授業である点を了解の上で、他大学の大学院生や、さらには一般聴講者が本授業に自由聴講者として参加することは構わないし、歓迎される。

●シラバスと授業スケジュール

3科目の担当教員と授業内容、および開講スケジュールは以下の通り。

- ▲授業時間：以下の日程に付されている（A）、（B）は次の授業時間帯を指す。
 - （A） 2時限目（11：10-12：40）
 - （B） 4時限目（15：10-16：40）

- ▲授業教室：法政大学大学院棟 803 教室。

(a)「形而上学」

▲担当教員：アルノー・フランソワ、杉山直樹、藤田尚志

▲授業内容：「ベルクソン『創造的進化』を読む」

ベルクソンの代表作の一つであり、ノーベル文学賞受賞の機縁ともなった『創造的進化』。この著作の綿密な校訂板を出したアルノー・フランソワを中心として、杉山直樹・藤田尚志が各章の要点を明快に整理しつつ、従来のベルクソン研究では論じられてこなかった新たな問題系を浮かび上がらせる。

具体的には、フランソワは、哲学的には本書における生命論と認識論の円環関係に、歴史的には当時の生物学・物理学的知見と本書の関係に着目しつつ、序論、第1章と第4章を読む。藤田は、哲学的には生命進化と技術の関係に、歴史的には後にベルクソン研究に大きな影響を与えることになるドゥルーズとの関係に注目しつつ、第2章を読む。杉山は、認識論的に大きな賭け金となる「知性と物質の同時発生」に関するベルクソン理論に焦点を合わせて第3章を読み、最後にベルクソンの生の哲学の日本における受容を論じる。

▲授業日程と各回のタイトル

- ①4/2・木・(A) 「著作の序論・生命論と認識論の円環」(フランソワ)
- ②4/4・土・(A) 「第一章の注釈：意識・宇宙・生物の間のアナロジー」(フランソワ)
- ③4/6・月・(A) 「仮説：生一般は意識とアナロジーの関係にある」(フランソワ)
- ④4/10・金・(B) 「第二章の注釈：目的論と生氣論」(藤田)
- ⑤4/11・土・(A) 「生物の丹精＝産業について：ベルクソンの器官学」(藤田)
- ⑥4/11・土・(B) 「方法の問題：ポスト・ドゥルーズ的読解のために」(藤田)
- ⑦4/16・木・(B) 「第三章：知性の発生を跡づけるための方法とその賭け金」(杉山)
- ⑧4/17・金・(B) 「世界における物質の理念的発生と人間知性における理念的なものの発生」(杉山)
- ⑨4/20・月・(A) 「ベルクソンの生の哲学の日本への導入」(杉山)
- ⑩4/22・水・(A) 「仮説の検証：目の例に関する生物変移論者との議論」(フランソワ)
- ⑪4/23・木・(A) 「仮説の確証：「エラン・ヴィタル」というイメージとその意味」(フランソワ)
- ⑫4/24・金・(A) 「第四章：体系の問題、まとめ」(フランソワ)

(b)「現象学」

▲担当教員：フローランス・ケメックス、村上靖彦、鈴木泉

▲授業内容：「現象学への二つのアプローチ」

ここでは現象学について二つのアプローチが展開される。(1)現代哲学史のアプローチでは、はじめに特にサルトルとメルロ＝ポンティを通して、有限性と自由の関係について現象学がどのように考えたのかを示す。次にドゥルーズの「超越論的経験論」の理念を基点として、現象学(フッサール、ラントグレーベ、メルロ＝ポンティ、サルトル)が差異哲学と対比される。(2)応用現象学のアプローチでは、現象学の資源(メルロ＝ポンティ、フッサール)を精神病理学の探究のために動員する。同じテキスト・ソースの二つのありうべき読解から出発して、これら二つのアプローチは現象学的思考の

豊穡さを描き出す。現代哲学の根本問題の錬成への貢献、臨床的分野での実質的な成果は、就中、現象学の現代における二つの用法を構成しているのだ。

▲授業日程と各回のタイトル

- ①4/2・木・(B) 「有限性の問い：ダヴォス会義、フーコー『言葉と物』」(ケメックス)
- ②4/3・金・(A) 「直観の問い：バルクソン対フランス現象学」(ケメックス)
- ③4/4・土・(B) 「超越論的意識、志向的意識、実存：サルトル、メルロ＝ポンティとフッサールの現象学」(ケメックス)
- ④4/7・火・(A) 「サルトルの哲学における否定的なものとの自由の位格」(ケメックス)
- ⑤4/8・水・(A) 「弁証法：必然性と自由：サルトルとメルロ＝ポンティ」(ケメックス)
- ⑥4/9・木・(A) 「有限性と自由、限界の思考」(ケメックス)
- ⑦4/17・金・(A) 「沈黙と想像身体のゼロ度：メルロ＝ポンティ」(村上)
- ⑧4/18・土・(A) 「身体スタイルと創造性：メルロ＝ポンティ」(村上)
- ⑨4/18・土・(B) 「視線触発と超越論的テレパシー：フッサールと精神分析」(村上)
- ⑩4/21・火・(A) 「ドゥルーズの「超越論的経験論」：『差異と反復』を中心に」(鈴木)
- ⑪4/23・木・(B) 「「超越論的経験論」と現象学：ラントグレーベ、メルロ＝ポンティ、ドゥルーズ」(鈴木)
- ⑫4/24・金・(B) 「「超越論的経験論」と差異概念：ハイデガー、メルロ＝ポンティ、ドゥルーズ」(鈴木)

(c) 「科学哲学」

▲担当教員：安孫子信，エティエンヌ・バンブネ，金森修

▲授業内容：「科学と人間」

科学についての‘哲学的反省’が科学哲学であるとして、伝統的な科学哲学、つまり形而上学的な認識論が19世紀以降退場していったその後に、その‘哲学的反省’の部分に取って代わっていった様々な試みが扱われる。まず取り上げられるのは、その‘哲学的反省’そのものを科学に化そうとして新たな人間科学(社会学)を創始し、伝統的認識論を終息させたオーギュスト・コントの試みである(安孫子)。ついで扱われるのは、そのような人間科学の科学としての立ち位置を現象学の方法を借りて精緻にあぶりだし、人間科学の新たな次元を開いたメルロ＝ポンティの科学論である(バンブネ)。そして最後に、近代科学を劇的に導入していった近代日本がそれに差し向けた、日本的な‘哲学的反省’が問われる。それぞれ個性的な科学哲学を展開させた、橋田邦彦、下村寅太郎、大森荘蔵の3人が取り上げられる(金森)。

▲授業日程と各回のタイトル

- ①4/3・金・(B) 「歴史と哲学. コントによるデカルトとパスカルの読解」(安孫子)
- ②4/6・月・(B) 「コントの科学哲学. 現象と否定性. 科学の歴史と形而上学」(安孫子)
- ③4/7・火・(B) 「伝統的認識論. 人間科学と自然科学」(バンブネ)
- ④4/8・水・(B) 「フーコーの認識論. 人間の死」(バンブネ)
- ⑤4/9・木・(B) 「メルロ＝ポンティの認識論. 現象の力」(バンブネ)
- ⑥4/10・金・(A) 「概念の創造(1)－構造」(バンブネ)

- ⑦4/15・水・(A) 「概念の創造 (2) - 象徴的なもの」(バンブネ)
- ⑧4/15・水・(B) 「概念の創造 (3) - 無意識」(バンブネ)
- ⑨4/16・木・(A) 「コントの科学哲学. 現象と肯定性. 科学の歴史と実証哲学」(安孫子)
- ⑩4/20・月・(B) 「橋田邦彦—実証主義と東洋の実践論との突き合わせ」(金森)
- ⑪4/21・火・(B) 「近代の超克」と下村寅太郎の寄与」(金森)
- ⑫4/22・水・(B) 「大森荘蔵の時間論」(金森)

////////////////////////////////////

■「ユーロ・フィロソフィー」関連の講演会プログラム■

●フローランス・ケメックス講演会

- ▲日時：4月17日（金）17：30－19：30
- ▲場所：法政大学ボアソナードタワー3階・マルチメディアスタジオ（0300 教室）
 ※法政大学ボアソナードタワー：法政大学市ヶ谷キャンパス
<http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/ichigaya/campusmap.html>
- ▲主催：法政大学国際文化学部
- ▲テーマ：「われわれの有限性をどうするのか. バディウによるサルトルとフーコーの読み直し」
- ▲発表者：フローランス・ケメックス（ベルギー・リエージュ大学）
- ▲言語（通訳の有無）：フランス語（逐次通訳）

●アルノー・フランソワ講演会

- ▲日時：4月18日（土）17：30－19：30
- ▲場所：法政大学九段校舎3階・マルチメディア教室
 ※法政大学九段校舎：〒102-0073 千代田区九段北 3-2-3
<http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/ichigaya/campusmap.html>
- ▲主催：法政大学人文科学研究科哲学専攻
- ▲後援：法政大学情報技術（IT）研究センター
- ▲テーマ：「ショーペンハウアーとニーチェの読者ベルクソンの問題」
- ▲発表者：アルノー・フランソワ（フランス・トゥールーズ第2大学）
- ▲言語（通訳の有無）：フランス語（遠隔同時通訳システムを使用）

●フローランス・ケメックス講演会

- ▲日時：4月19日（日）13：00－18：00
- ▲場所：東京大学文学部法文1号館（2階）215 教室（予定）

※http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_01_01_j.html

▲共催：哲学会、フランス哲学セミナー

▲テーマ：「われわれの有限性をどうするのか. バディウによるサルトルとフーコーの読み直し」

▲発表者：フランス哲学セミナー学生有志+フローランス・ケメックス（ベルギー・リエージュ大学）

▲言語（通訳の有無）：フランス語（大意を通訳）

●エティエンヌ・バンブネ講演会

▲日時：4月23日（木）17：00－19：00

▲場所：東京大学駒場キャンパス 18号館 4F コラボレーションルーム2

※http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_17_j.html

▲主催：UTCP <http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/>

▲テーマ：「メルロ＝ポンティにおける自然と人間」

▲発表者：エティエンヌ・バンブネ（フランス・リヨン第3大学）

▲言語（通訳の有無）：フランス語（なし）

●大阪大学人間科学部ワークショップ

▲日時：4月25日（土）13：00－19：00（予定）

▲場所：大阪大学豊中キャンパス待兼山会館会議室

※<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/annai/about/map/toyonaka.html>

（地図の左上、35番の建物）

▲主催：大阪大学人間科学研究科基礎人間科学講座

▲テーマ：「人間は理性的な動物ではない. メルロ＝ポンティと人類学的差異の問題」（バンブネ）

「われわれの有限性をどうするのか. バディウによるサルトルとフーコーの読み直し」
（ケメックス）

「ショーペンハウアーとニーチェの読者ベルクソンの問題」（フランソワ）
その他

▲発表者：アルノー・フランソワ（フランス・トゥールーズ第2大学）+フローランス・

ケメックス（ベルギー・リエージュ大学）+エティエンヌ・バンブネ（フランス・

リヨン大学）+近藤和敬（大阪大学）+森元齋（大阪大学）

▲言語（通訳の有無）：フランス語（テキストの翻訳を配布，かつ通訳あり）
